

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第6回理事会 開催日：9月16日。出席者：藤本会長
他 35 名。

1. 常務委員委嘱の件

長谷川太郎君（研究担当）（住金・東京技術部長）を
委嘱することを決定。

2. 常務委員、共同研究会鉄鋼分析部会長解嘱、委嘱
の件

解嘱 池上卓穂君（日本パーカライジング）

委嘱 池野輝夫君（富士・技術開発部副長）

以上解嘱ならびに委嘱を決定した。

3. 鉄鋼標準試料委員会委員長解嘱、委嘱の件

解嘱 池上卓穂君

委嘱 池野輝夫君

以上解嘱ならびに委嘱を決定した。

なお、池上卓穂君は長年にわたり標準資料委員会委員長として、標準試料の発展に努められ、海外においても高く評価されるまでに至り、理事会として厚く謝意を表するとともに、委員長解嘱にあたり特別に感謝状を贈呈することを決定した。

4. 第78回講演大会役員業務分担の件

懇談会挨拶で会長ご欠席の場合は副会長にお願いする。また、来秋開催予定の名古屋地区が開催不可能になる可能性があるので、鉄鋼、金属連絡懇談会に関西支部よりも出席願うことになった。

その他については資料どおり決定。

5. 第79回講演大会開催期日会場決定の件

来年4月8日～10日経団連会館で行なうことを決定した。また金属学会は同期日に農協、産経を中心に開催することになった旨報告がなされた。

6. 第1回ヘンダーソン賞受賞者決定の件

編集委員会選定候補論文 “An Origin of the recrystallized Grain with Preferred Orientation in Cold-Rolled Fe-3%Si” (Trans. ISIJ, 9 (1969) 3), 金属材料技術研究所古林英一君が第1回ヘンダーソン賞受賞者に決定。

7. (仮称)日本ねじ研究会設立の件

設立趣旨ならびに会長の発起人就任が承認された。

企 画 委 員 会

第6回委員会 開催日：9月11日。出席者：俵委員長
他 23 名。

1. 第1回ヘンダーソン賞受賞候補者決定について

論文 “An Origin of the Recrystallized Grain with Preferred Orientation in Cold-Rolled Fe-3%Si” (Trans. ISIJ, 9 (1969) 3)

著者：金属材料技術研究所 古林英一君が編集委員会において選定された旨報告された。

2. 第78回講演大会役員業務分担について

資料どおり承認された。

なお来秋の講演大会は名古屋地区開催の予定であるが大学紛争などの関係から大事をとり鉄鋼短期大学（尼崎市）を考えたほうがよいとの意見があり、今秋大会の金属学会との連絡会で相談することになった。

3. 高温減圧下における2相反応に関する研究昭和44年度委託金交付内示の件

1600万円の委託金の要求をしていたが、1118万円に決定した。差額については、1部消耗品などを削除し、300万円の不足となるが、来年度予算の前借りという形で今年度の予算からたてかえてほしいとの報告がなされ承認された。

4. 原子力総合シンポジウム共催金について

共催ならびに共催分担金10,000円が企画委員会として決定した。

編 集 委 員 会

第7回和文会誌分科会 開催日：9月5日。出席者：
荒木主査，他 14 名。

1. 論文審査報告

15件の報告があり，掲載可9件，修正依頼5件。

2. 鉄と鋼第55年第14号論文選定

論文7件，技術資料1件，解説1件，寄書1件を選定した。

3. 技術資料類執筆依頼について

6件を依頼することになった。

4. 部員総会報告について

8月27日，28日開催された技術部員総会にて「鉄と鋼」についての下記の意見，

1. 鉄鋼精錬などは権威があるので現状で進めてほしいが，圧延，加工面の充実の必要がある。2. 研究部門にかたよりすぎて現場的なものが少ない。3. 外国誌に現場的なものが多い。4. 共研の報告，共研の特集号などを出すといふ。5. 展望解説をふやす。6. 査読がきびしすぎる。投稿より掲載までの期間を短くしてほしい。

などの報告があり，下記の検討がなされた。

(1) 現在，日本では加工，圧延関係の研究者が少なく，大学の講座でも加工，圧延の部門はない。論文など掲載記事をふやすには共研などの委員会資料を論文や技術報告として提出願うよう部員に協力を依頼することになった。

(2) 深絞りの問題について共同執筆依頼することになり吉谷，中村両委員に検討依頼する。

第8回和文会誌分科会 開催日：10月3日。出席者：
荒木主査，他 13 名。

1. 論文審査報告

27件の報告があり，掲載可10件，修正依頼11件。

2. 鉄と鋼第56年第1号論文選定

論文8件，資料1件を選定，ほかに展望と技術資料ま

たは解説を掲載。

3. 論文勧誘について

Trans. ISIJ より論文の推薦があり、3件勧誘することになった。

第7回欧文会誌分科会 開催日：9月24日。出席者：橋口主査，他 15 名。

1. 6 件の論文について審査報告がなされた。
2. 3 件の論文の投稿を勧誘することになった。
3. 論文各項目の内規について検討した。

第6回講演大会分科会 開催日：9月10日。出席者：草川主査，他 22 名。

1. 概要集に関するアンケートについて
第78回大会の折に講演数増加についてどのように対処するかを中心に出席者に対しアンケートをとることとなり案を検討した。
2. 第79回大会討論会テーマについて
製鉄・焼結鉄の生産性および品質におよぼす MgO の影響 座長 吉井周雄君
製鋼・連続鑄造の凝固について 座長 梶山正孝君
加工・圧延用ロール材質とその使用条件 座長 未 定
性質・鋼の靱性 (座長 基礎研に一任)
鉄鋼の格子欠陥 座長 橋口隆吉君
以上の案を出した。
3. 第78回大会座長会議について
10月11日(大会第1日)特別講演のあと開催と決定。
4. 委員委嘱について
9名の委嘱候補者をあげる編集運営委員会に諮ることとした。

鉄鋼科学技術国際会議組織委員会

第1回 I・C 技術協力小委員会 開催日：8月29日。出席者：橋口実行委員長，他 35 名。

田畑専務理事の挨拶があつた後、橋口実行委員長が、当小委員会の経緯および 1970 年 9 月に開かれる鉄鋼科学技術国際会議の準備状況を、セカンドサーキュラーを参考にして説明された。次に事務局より、当小委員会の目的は、1970年の国際会議を国内的に宣伝し、この会議を契機として研究活動を盛り上げ、優れた論文を数多く集めることにある旨の説明があつた。続いて今後の活動スケジュールについての説明があり、各分科会ごとに国内論文の整理を行ない、より多く、より優秀な論文の投稿を促進するよう活動することになった。

共同研究会 鋼 管 部 会

第5回継目無管分科会 開催日：8月22, 23日。出席者：渡辺主査，他 27 名。

1. マンネスマン関係
 - (1) 加熱炉操業について
 - (2) 磨管機における管の変形と品質の関連調査
 - (3) 定型機について
 - (4) 管材および鋼質と製管疵との文献調査

2. 熱押関係

- (1) 加熱炉操業について
- (2) 押出製管法は使用される工具について
- (3) 偏肉防止の考え方について

以上の議題について報告が出され、熱心に討議された。

第5回溶接管分科会 開催日：8月29日。出席者：矢野主査，他 67 名。

1. サブマージドウェルド関係

- (1) X線に関する新 JIS 規格 (Z3104-1968) についてのまとめ
- (2) サブマージドアーク溶接鋼管に発生する欠陥の検査方法とその補修方法に関するまとめ
- (3) 溶接欠陥と引張り曲げおよび疲労強度試験結果に関する各社報告

2. 電縫管関係

- (1) 高周波溶接鋼管におけるメタルフローについて
- (2) 高周波溶接鋼管における硬度
- (3) シャルビー衝撃試験、リバースベンド試験、扁平諸試験結果

以上の議題について報告がなされ熱心に討議された。

原子力部会

第4回第1小委員会 開催日：9月19日。出席者：松本委員長，他 16 名。

1. 鉄鋼製造プロセスにおける induction heating の応用

電気加熱協会より講演が行なわれた。

2. 原子力発電による電力を利用したプロセス変換の検討

プロセス変換WGが検討を行なってきた電気製鉄の経済性について報告が行なわれた。

3. 今後の方針

製鋼部門のプロセス変換として転炉法と電気炉の比較を行なうことになった。

第4回第2小委員会 開催日：9月24日。出席者：松下委員長，他 20 名。

1. 直接製鉄ワーキンググループ報告

直接製鉄に対する原子力熱エネルギー適用の検討中間報告書が提出された。

2. 高炉製鉄ワーキンググループ報告

現行高炉シャフト部へ高温還元ガスを吹込む場合の理論的検討を行ない、その中間報告が発表された。

3. 部会への報告書提出

上記2つの報告書の提出の件につき了承された。

4. 原子炉多目的利用懇談会の設置

日本原子力産業会議において表記懇談会が設置された件につき報告された。

第6回第3小委員会 開催日：9月22日。出席者：杉本主査，他 20 名。

1. 製鉄用高温ガス冷却実験炉に関する検討中間報告設計WGで検討を行なってきた高温原子炉開発の基本構想について報告書が提出された。

部会への報告書提出と今後の進め方

上記報告書は部会へ提出することが承認された。また今後の進め方として高温原子炉の基本構想における調査事項ならびに問題点を検討する件につき部会の指示をまっこととした。

標準化委員会 ISO 鉄鋼部会

第3回 WG 9 分科会 開催日：9月11日。出席者：安藤主査，他 8 名。

1. 第7回WG国際会議（10月22～24日イタリア）に日本代表として、山岡（八幡）植木（鋼管）の両委員を派遣する旨紹介された。

2. プリキおよびプリキ原板のコイルに関する日本コメントの作成をおこなった。

3. シートの Draft ISO Recommendation の内容を逐次確認した。

第7回 WG 10 分科会 開催日：9月9日。出席者：郷原主査，他 14 名。

1. ISOTCI7/WG10(圧力容器用鋼)-ISOTCI1/SCI(ボイラおよび圧力容器の材料)合同委員会出席報告

郷原，野村，丸岡の各委員は TC17/WG10 の日本代表としてデュッセルドルフで開催された上記委員会に出席され，その報告書が提出説明された。

第27回機械試験方法分科会（第4回 WG 1 分科会）

開催日：8月21日。出席者：吉沢主査，他 19 名。

1. ISO/R375 改正案の検討

特に問題がないので意見は提出しない。

2. 「疲れ試験機の検定」に関する ISO 事務局案の検討

前回に引き続き内容の検討をおこなった結果，特に意見は提出しないことになった。

3. 伸び値の換算について

データシート部会で調査中であり，その結果がまとも次第，本分科会にも紹介してもらい，「伸び値の換算」に関する ISO 事務局案の検討の参考とすることになった。

4. シャルピー衝撃試験機の JIS について

衝撃刃先の丸み半径の影響についての調査結果の報告があつた。

昭和44年度第1回 JIS PC 硬鋼線原案分科会

開催日：8月26日。出席者：猪股主査，他 29 名。

昨年度の JIS-PC 鋼棒，鋼線の JIS 原案作成に引き続きパイルポール，高圧管などの PC 硬鋼線の規格化を計るため本原案分科会を設置した。

JIS 原案作成についての問題点や意見を求めたアンケートの結果が幹事より報告された。また幹事側作成の JISPC 硬鋼線（仮称）規格（案）の報告に続いて討議された。

1) 160 kg/mm² 級のものも規格に入れたらどうか。

2) 寸法について，6.0 mm の（ ）を外すことや 8.0 mmを追加し 0.5 mm 単位にして 4.0 mm 以下も含めたい。

などの意見も出たが，次回分科会で検討することになった。

記号についての案も次回までに検討してもらうことになった。

第58回資料委員会 開催日：9月9日。出席者：草川委員長，他 15 名。

1. 鉄鋼技術情報専門センター仮称設立構想

作成するに当たって，順次説明を行なった。

①設立の目的 ②設立によるメリット ③業務組織(案) ④年次業務計画(案)

以上設立の構想案に対し質疑応答されたが，次回更に各自検討してくることになった。

2. Translation Available List に関する ISI からの返事要旨について

ISI で BISITS, Card を作成し注文に応ずるとの返事が来たが余り merit がないのでカード作成の注文は中止することになった。

3. カタログの受入れ状況について

カタログ受入状況をみるとその件数が国内国外ともに年々減少の傾向にあるので将来のカタログ収集については専門機関に依頼する方向に進め，カタログセンターなどの利用について検討をすることになった。

新 入 会 員 氏 名

(昭和44年7月1日～8月31日)

維 持 会 員							
日本石油(株)		乙幡 徹也		〃		清水 義勝	
正 会 員		君和田 宣之		〃		高橋 礼二郎	
(株)神戸製鋼所		溝畑 幸一		〃		〃	
大河内 雅彦	(株)神戸製鋼所	伊藤 宣義	日新製鋼(株)	吳	〃	福田 正	〃
斎藤 正次	〃	采谷 常三郎	〃	〃	〃	尹 漢哲	東京大学生産技術研究
橋 敬	〃	漁 充夫	〃	〃	〃	〃	所
西垣 博元	〃	川瀬 尚男	〃	本社	〃	小野田 義富	京都大学
妻鹿 護	〃	青山 福司	特殊製鋼(株)	技研	〃	山本 雅彦	大阪大学
森 恒太郎	〃	小野 政幸	〃	〃	〃	学 生 会 員	
本郷 敏弘	〃	本田 弘之	〃	〃	〃	石原 寛二	熊本大学工学部
伊東 克英	〃	月ヶ洞 稔	日立造船(株)	〃	〃	植木 正憲	〃
猪飼 善弘	〃	中村 哲也	〃	〃	〃	尾園 孝三	〃
山崎 雅臣	〃	原田 耕式	〃	〃	〃	岡本 晃誠	〃
山本 勝治	〃	安藤 智純	三菱重工業(株)	〃	〃	沖田 和男	〃
落田 義隆	〃	三阪 利行	〃	〃	〃	柘原 賢一	〃
山田 浩	〃	田中 征夫	関東特殊製鋼(株)	〃	〃	蒲池 俊文	〃
若林 正司	〃	波多野 正一	〃	〃	〃	栗田 義信	〃
池田 章	東洋鋼鉄(株)	鈴木 敏彦	日立金属(株)	〃	〃	下田 幸晴	〃
河村 宏明	〃	二岡 良一	〃	安来	〃	竹田 一郎	〃
北畠 信三郎	〃	杉山 貞蔵	西武化学工業(株)	〃	〃	中野 文雄	〃
野原 薫	〃	吉村 国慶	〃	〃	〃	中村 隆作	〃
棟居 圭一	〃	伊藤 隆男	岩手製鉄(株)	〃	〃	中山 直美	〃
吾郷 文彦	富士製鉄(株)	佐藤 允昭	〃	〃	〃	永池 正人	〃
本田 惣七	〃	小鹿 昭司	大同製鋼(株)	〃	〃	永田 雅博	〃
小峰 善夫	〃	徳永 達	大阪製鋼(株)	〃	〃	西 実	〃
四方 田英明	〃	松永 健吉	日本特殊鋼(株)	〃	〃	原田 真一	〃
佐藤 祐士	〃	堀 保胤	(株)東京計器製作所	〃	〃	平野 正和	〃
有馬 正人	日本鋼管(株)	滝本 正	鉄道技術研究所	〃	〃	堀 篤則	〃
吉田 弘	〃	竹中 康雄	東燃石油化学(株)	〃	〃	松永 成章	〃
平坂 正人	〃	日野 義昭	東北特殊鋼(株)	〃	〃	森崎 時秀	〃
山岸 一雄	〃	山戸 英二	住友機械(株)	〃	〃	横内 三郎	〃
梅田 三郎	ウメトク(株)	山中 巖	関西鉄道学園	〃	〃	吉田 純	〃
阪上 由敬	〃	横田 純一	日機装(株)	〃	〃	吉留 省吉	〃
田中 好孝	〃	吉川 凌	日本砂鉄鋼業(株)	〃	〃	脇丸 正敏	〃
森本 英甫	〃	山本 長邦	大和精工(株)	〃	〃	川崎 敏彦	大阪府立大学工学部
占部 正美	八幡製鉄(株)	沖 和男	東芝セラミックス(株)	〃	〃	川崎 光浩	〃
中山 正	〃	河内 良基	(株)小松製作所	〃	〃	滝野 寿夫	〃
野宮 好堯	〃	木村 竜己	愛知製鋼(株)	〃	〃	辻田 憲一	〃
荒川 基彦	〃	後藤 純一	第一耐火煉瓦(株)	〃	〃	寺内 八郎	大阪府立大学大学院
篠原 凡平	川崎製鉄(株)	西川 茂夫	東鑄鋼(株)	〃	〃	中島 健二	立命館大学理工学部
仲摩 芳雄	〃	天野 善正	(株)安藤鉄工所	〃	〃	小笠原克文	東北学院大学工学部
夏見 敏彦	〃	大石 橋貞雄	石川島播磨重工業(株)	〃	〃	外 国 会 員	
野住 一正	〃	北島 宜誠	(株)東海理化電機製作	〃	〃	Dr. David Robert Gaskell (U.S.A)	
安蔵 泰夫	住友金属工業(株)	古丸 勇	日本坩堝(株)	〃	〃	Mrs Judith Murray (Librarian)	
	和歌山					(England)	